

市民と市長のまちかどトーク 市長あいさつ（全文）

- 日 時：平成20年8月31日（日）14：30～16：00
- 場 所：ロビンソン百貨店 4階ギャラリー
- 参加者：151名

皆さんこんにちは、市長の加藤です。本日は「市民と市長のまちかどトーク」に大変たくさんの方にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。こうやって、まちかどで皆さんとテーマに沿ってお話しさせていただく機会は、今日がスタートということになります。これから、折に触れてこうして開かれた場所でフランクにディスカッションする機会を、できる限り設けていきたいと思っております。これまでですと、職員が多く控えていろいろな質問に応じられるような体制でやっていたと思うのですが、今日は人数を絞って、とにかく直接いろいろな話をしたいということで、最小限のスタッフで臨ませていただいております。短い時間ではありますが、できるだけ皆さんの生の声をいろいろな意味でいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

多くの皆さんに支えていただきながら、「新しい小田原へ」というキャッチフレーズを掲げて、市役所に市長として就任し、3ヶ月が経ちました。この間、6月議会における厳しい議論も含めて、誠実にお答えさせていただき、そこから皆さんとお約束した「持続可能な市民自治」に向けた小田原市政の建て直しを、一つ一つ着実に駒を進めてきている段階です。多くの課題がある中で、限られた時間の合間をぬって、様々な市政の現場、活動の現場に足を運びながら時間を過ごしてきました。自分の自由に使える時間が相当減ってしまい、また体を使う時間がほとんどなくなってしまいましたが、多くの市民の皆さんや職員に支えられて頑張ってきております。

早速に、市政の懸案であります、小田原駅・小田原城周辺のまちづくりの対応も含めて、市立病院を含めた地域医療の再構築や、これから本格的に始まる市民の皆さんが参画する市政運営



の仕組みづくり、また今日もお話をいたします、地域コミュニティ単位での政策など、これらをどうやって進めたらいいか、大きく5つのチームを市役所の中につくり、相当タイトなスケジュールを職員の方たちに強いながら、この先の展望を開くために作業をしてきました。

また、皆さんには、マニフェストやいろいろなところでお伝えしているとおりに、平成23年4月から新しい総合計画がスタートするわけですが、そこに向けて皆さんに全面的に参画をしていただくための、総合計画の策定に向けたプロセスのつくり込みを、所管課が一生懸命やっております。そのほか、市立病院や環境事業センターを含めて、できるだけ時間の空きをつくって市民の皆さんに直接関わるいろいろな現場に足を運んで、その現場を担っている職員とのコミュニケーションも重ねています。また、先週からは「市民と市長の地区懇談会」、これは、市内25の自治会連合会ごとに足を運ばせていただき、市民生活を支えてくださっている自治会や老人クラブ連合会、社会福祉協議会、子ども会、青少年育成推進員などといった、地域で活躍されている方たちと20人、30人の単位で、ひざを交えてお話を伺いながら、今後の市政運営について意見交換をするといったことも始めております。皆さんの中からは、「加藤が就任して3ヶ月経つのに、なかなか変わってこないじゃないか」といったお声も聞こえてくるのですが、なかなか時間がかかることですし、一つ一つ皆さんに見えない基礎の部分から積み上げをしているところですので、どうぞもうしばらくお待ちいただきたいと思います。

今日はそういった中で、開催のテーマであります、「市民の力を活かすまちづくり」のあり方について、皆さんとできるだけ意見交換をしていきたいということで、このようにおうかがいをさせていただきました。

まず、なぜ市民の力を活かしていくまちづくりが必要なのか、ということではありますが、これは就任前からいろいろなところで口を酸っぱくしてお話してきましたし、所信表明でも、または議会の質疑でも、繰り返し繰り返しお話してきました。好むと好まざるとにかかわらず、これからの地方自治体の運営には、市民の力が不可欠であるということを、改めてお伝えしていきたいと思っております。

就任から3ヶ月が経過して、一人の市民として見えていた部分と、市長となって市役所の中に入ってようやく見えてきた部分とがあるわけですが、それらを見るにつけ、いよいよ市民の皆さんに動いてもらわなければどうにもならない、というところがたくさんあるということがはっきりしてきました。

一つ目は、これから少子高齢化が進み、全体として地域の人口が減っていきます。特に、その中でも若い人たちが減っていくということは、つまり税金を納める世代が減っていくわけですから、小田原市としては税収が下がっていくという状況は、避けることができません。局面的な努力はできても、根本的には下がっていくと思わなければなりません。一方で、地

域の中で、高齢者の方々の絶対数は増えていきますし、いろいろな意味で医療を必要とする方たち、また経済的に立場が弱くて社会的なサポートを必要とする方たちが、相対的には増えていきます。こういった方たちを支えるコストは増える方向にあるわけですから、市としては収入が減って支出が増えるという構造になるわけです。したがって、これまでと同じ仕組みでは立ち行かないということ、選挙の前から繰り返しお伝えしてきました。

実際に市役所の中に入って、その時の認識以上に見えていることは、これから小田原市は、今申し上げたこと以上に、例えば、老朽化した上下水道の幹線の更新をしなければならない、または社会福祉センターなど、いわゆる公共的な建物があと5年から10年位経つと、一斉に耐用年数を迎えるため、こうしたインフラの整備をしていかなければならない、ということです。しかし、そういうことに対する備えというものがほとんどできていないということを知りました。ですから、私が市民として見ていたときよりも、さらに中・長期的には財政需要が増えてまいります。

一方、収入が伸び悩むという中で、やらなければならない仕事を抱えながら、市民や職員が一致団結してどうやって乗り越えていくのかというときに、皆さんに担っていただかなければならない部分が相当あると考えています。そのことは、大きく財政面から考えて、どうしても避けがたいということは先ほど申し上げましたが、この貴重な税金を間違いなく使っていくためにも、市役所の職員だけが物事を決めて進めていくというプロセスではなくて、例えば、この下府中地区の方たちが、この地区の問題については一番よく知っているわけですから、皆さんが一番必要としているところに、貴重な税金を使っていく。そして、無駄のない形で、しかもできることについては地域の皆さんにやっていただく形で使っていくことができれば、貴重な100万円を無駄がなく活かしていくことができるわけです。そういった意味でも皆さんの声がしっかりと反映できる仕組みをつくっていかなければならないということです。

二つ目は、今の子どもたちの世代が10年後、20年後大人になったとき、おそらくこの地球は大変厳しい状況に置かれているということです。文字どおり、生存が問われる時代がやってきますし、もうその片鱗が見始めています。食料の問題、エネルギーの問題、いろいろな意味で過酷な状況が来る。しかも、地域のコミュニティが衰退し、地域の担い手がいなくなっていくという中で、若い世代の人たちにしっかりとこの小田原、日本、地球を担ってもらうために、彼らに生きる力、人間としてたくましく生き抜いていく知恵を伝えていかななくてはいけない、また私たち大人自身が、この時代を生き抜く気概を持たなければならないということです。そういった意味でも、「自分たちで出来ることは自分たちでやるんだ」という思いを皆さんに持っていただきたい。もちろん、それには市の職員が率先して現場に立ってやっていくことが必要ですが、そういったことが、次の世代に高い問題解決力を持った人

材を残していくことになると思います。

以上、財政面でのこと、また無駄なく税金を使うということ、そして次の世代にこの地域を担う力を託していくということなどに対して、私たちは今の現実にはしっかりと向き合う気持ちを持って取り組まなければならないと思っております。このようなことから、市民の力がなくてはこの局面を乗り越えていくことができないということ、まず冒頭でお伝えしたいと思っております。

では、これはからどのような形の市民自治を小田原市で実現しようと考えているのか、ということをお話したいと思っております。これは、マニフェストにも書いてありますし、今その方向で市役所の中で話を進めておりますが、大きく2つの仕組みをつくっていきたいと思っております。

一つは、先ほどから申し上げているとおり、地域のことを一番よく知っている地域の皆さんが、地域のことを皆さん自身でやっていただくための仕組みをつくるということです。

もう一つは、地域にとらわれず、例えば、障害者や高齢者の福祉、教育、環境、まちづくり等、様々な分野で熱心に取り組んでおられる方々がたくさんいらっしゃるわけですから、そういった分野別の活動ごとにしっかりと市政に反映される仕組みを持つということです。つまり、地域別の視点と分野別の視点で市民の意見が施策にしっかりと反映される仕組みを持たなくてはなりません。

前者の方は、少し堅苦しい名称で呼んでおりますのが、「地域運営協議会」というものであります。現在、各地区には、例えば自治会、老人クラブ連合会、子ども会、青少年育成推進委員、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、商店会、安全協会、体育振興会など、数えたら相当の団体があるわけですが、こういった方たちが一堂に会する機会が実はあまりありませんでした。「自治会は自治会で、老人会は老人会で」といったケースが多かったのではないかと思います。最近では、子どもたちの安全が社会的に問われるようになり、地区の見守りなどをするとき、ようやく子ども会と自治会、PTA、老人会が一緒になるようなことはあったのですが、それ以外のところで顔を合わせて分野を越えて手を携えることは、これまであまりなかったのだと思います。地域運営協議会というのは、そういった皆さんが、年間絶えず一堂に会する場を持てるような仕組みづくりを設けていきたいというものです。

例えば、この下府中地区であれば、交通渋滞という問題に対し、地区住民の安全をどう確保するのかを喫緊の課題だと認識されたとして、そのためには「自治会は何をしよう、子ども会は何をしよう、育成会はどういったことをしよう」というふうに、一つのテーマを共有することで、いろいろな人たちの役割や働き方を組み合わせていけば、大きな力が発揮できるわけであります。

そのような、横につながりあうための場として、地域運営協議会をぜひもっていただきたい

い。そして、ゆくゆくは総合計画が始まる平成23年4月の段階で、市の職員が25の自治会区ごとに、例えばこの下府中地区であれば、下府中地区に専属で5人とか6人とか、その位の人数が張り付くような、いわゆる「職員の地域担当制」というものを敷こうと思っています。ですから、先ほどから申し上げている、地域の皆さんにやっていただかなくてはならないことがたくさんあるということ、一方的に皆さんに投げているわけではなくて、それらを実現するために職員も一緒になってやるという体制をつくっていきたいと思っています。

正直、自治会の皆さんの仕事は大変だと思います。限られた方たちが順番に役を受け持たれて、その方たちがどんどん高齢化し、なかなか後継者の方が出てこないという状況の中で、そこにまた地域の運営となると大変厳しいと思います。それを補うためには、なんとんでも市の職員が皆さんの現場に出ていくということで突破していくしかないと考えています。そして、職員と皆さんが一緒になって動いていくということを通じて、地域のあるべき力を発揮していただきたい。また、とかく荻窪の市役所に固まりがちな職員の意識をもっと現場に向けていき、「現場が最前線なんだ」という意識を職員にも肌身を通じて学んでもらう必要があると思っています。

次に、もう一つの分野別の意見収集の仕組みですが、市が物事を決めるにあたって、とかく事業の細かいところまで決まった段階で市民に提示されることが多く、その際、市民の思いと随分違うのではないかと思ったときには、その意見は聞かれはするものの、既にその段階では政策に反映されにくい構造があったわけです。そのことは選挙のときからお伝えしてきたのですが、できるだけそのようなことがないように、計画が軟らかい段階で皆さんに意見を打ち込んでいただく仕組みが必要だと思っています。その機会を分野別の会議の場で確保しようというのが、まだ仮称ですが、「分野別の市民会議」というものであります。これをどれくらいの細かさで、どれくらいの頻度で実施していくかということは、技術的な課題ですのでこれからの検討になりますが、いずれにしても、「地域別」と「分野別」のそれぞれの切り口で皆さんに参画してもらい、実際に意見を市政に反映させていく仕組みを設けていきたいと考えております。

「地域運営協議会」「職員の地域担当制」「分野別の市民会議」といったものが、できあがっていったあと、最終的には市役所が抱えている様々な権限、あるいはそれに伴う予算といったものを、すべてというわけにはいきませんが、できるだけ皆さんに受けていただけるものについては、地域に委ねていきたいと考えています。そして、皆さんが優先順位をつけて予算の執行をしていただくようなことも視野に入れながら、このプロセスを進めていきたいと思っています。これは、なかなか理想論でもあり、すぐにできるものではないと覚悟をしておりますが、平成23年4月の総合計画をスタートさせてから、時間をかけて着実に理

想の姿に近づけていきたいと考えております。

これについては、なんとといっても、市民の皆さん、地域の皆さんの強力なバックアップや地域でやるという思いが、市全体を突き動かしていくことと思います。私も折に触れてPRしていきますので、ぜひとも地域の方からも声をあげていただきたいと思います。

そのような、市民の皆さんが相当程度主体的に参画して、現場で引っ張っていただける仕組みを小田原市が持つまでに、一定の時間をかけて進んでいくこととなります。その途中経過をどうしていくのかということが、今年度後半からの課題となります。すぐに皆さんにお願いしていくことになるのは、9月議会が終わった後、冒頭申し上げました、市立病院を含めた「地域医療の再構築」、地域コミュニティ単位で施策をどうするかといった、「コミュニティ単位の施策の推進」、市民の皆さんにこれからいかに参画してもらうかといった、「市民参画の手法の検討」、そして、小田原市が1,500億円という借入金を持っている財政構造をどう立て直すかといった「行財政改革の推進」、最後に、小田原駅周辺の懸案事項をどうベストの形で解決するかといった「小田原駅・小田原城周辺のまちづくり」。これら5つの課題を現在庁内で検討しております。この中で、市民参画の部分については、総合計画の中に入れてしまうこととなりますが、残りの4つは、早速、市民の皆さんに検討委員会への参加をお願いしていくこととなります。これらについて、10月15日号の広報紙等を通じて、参加の呼びかけをいたします。一方で、委員に参加する方は限られていますので、それ以外の皆さんもいろいろな考えがあるでしょうし、構想をお持ちだと思います。そういったことが、別ルートでもしっかりと把握できるような募集の仕方を工夫していきたいと思っておりますので、積極的に応じていただきたいと思います。

専門家・市民を交えた検討委員会での検討が終わったあとに、来年4月からは総合計画の策定に向けた市民参画のプロセスが始まります。これについては、企画政策課、特に若手の職員が「これまでどこにもなかったような小田原スタイルをぜひやろうじゃないか」という意気込みを持って、他の自治体の方法なども参考にしながら研究をしております。とかく、市民参画といって公募してみても、意見が偏ってしまったり、ものを言うことが得意な人の意見が通ってしまい、なかなかそうでない人の意見が届きにくかったりといった過去の反省があります。そういったことを踏まえて、できるだけ万遍なく問題意識が上がってくるような仕組みをつくるための工夫を考えていきます。

来年4月の段階で、地域別にも分野別にも参加していただけるような準備をしておりますが、これには、市民と職員のコミュニケーションに膨大なエネルギーを使うことになろうかと思えます。また、前回の総合計画の策定以上に丹念にやろうと思っております。職員はそれに対して、相当の覚悟をしてプロセスづくりに臨んでおります。それを来年4月から1年あまりかけて計画の内容をつくっていき、その一方で、新しい総合計画を実現するための小田

原市の形、つまり、組織機構や職員の配置もそれに伴って大幅に変えていかなくてはならないと考えています。地域にかなりの資源を張り付けた形の編成にしなくてはなりません。

また、市の職員もここ2、3年でかなり世代交代が進みますので、陣容的にも相当若い人たちが上がってくることになるかと思えます。したがって、平成23年4月には、新しい総合計画の開始をもって、新たな陣容と組織体制で皆さんと一緒に、新しい小田原づくりに着手するタイミングを迎えることになります。

今は目に見えた形で成果を見せていく、具体的に変わった形をつくっていくということがなかなかできないのですが、そのようなプロセスが始まっていくということ自体が非常に重要なことで、そこに参画していく人たちがたくさん出てきた段階で、おそらく小田原は変わったということになるのではないかと思います。

よって、そういう思いを皆さんに持ってもらえるように、情報については丹念にお伝えし、いろいろな分科会やワーキングチームといった中での検討過程の情報を、現在進行形でお見せしながら、皆さんとともに歩んでいきたいと考えております。

私からの話は以上になりますが、本日は皆さんの方からいろいろとお聞きになりたいことがあると思います。また、今の私の話を受けて、いろいろなご意見やご提案があらうかと思えますし、「地域の現状はもっと厳しいんだ」というようなご指摘も多々あらうかと思えます。本日は、テーマについて皆さんの率直な忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。

私の方からはいろいろな意味でエールを贈らせていただきましたが、それにお応えしていただける形で、前向きな提案等を多くいただけますと、私としても大変ありがたいと思っております。もちろん厳しいご指摘も含めて、今日はぜひ遠慮なくお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。